

第2期菊池市まち・ひと・しごと創生総合戦略

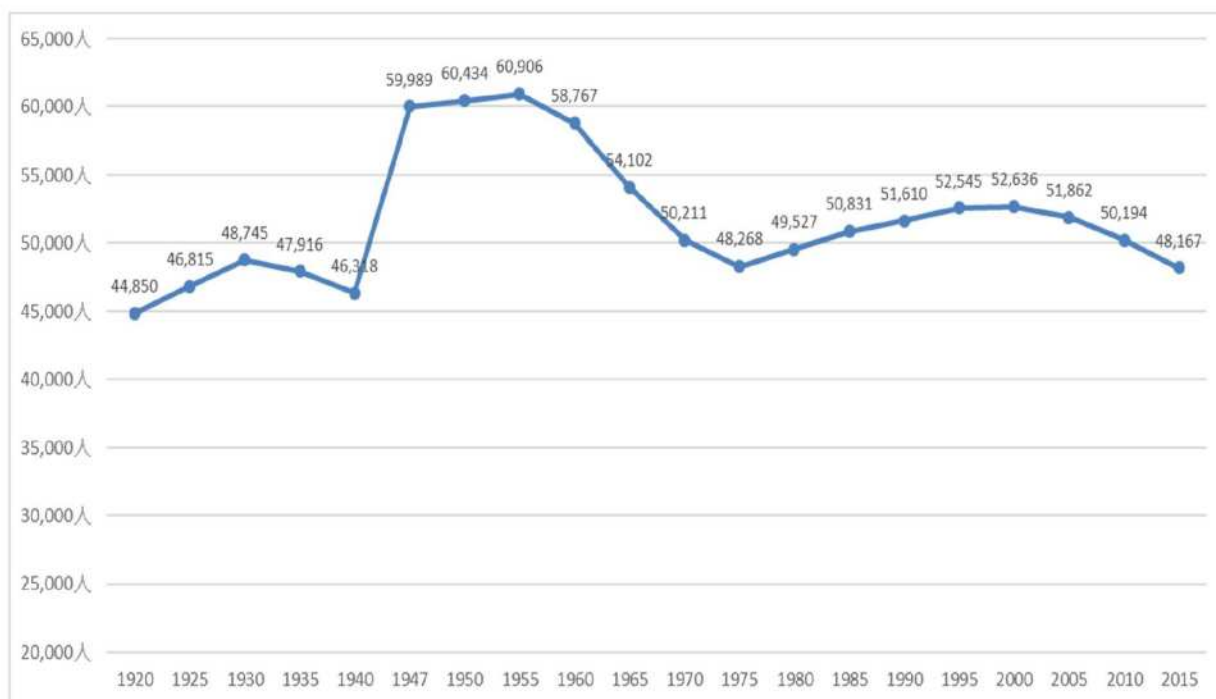
癒しの里きくち 人口ビジョン・総合戦略 (素案)

令和元年12月13日
菊池市 市長公室

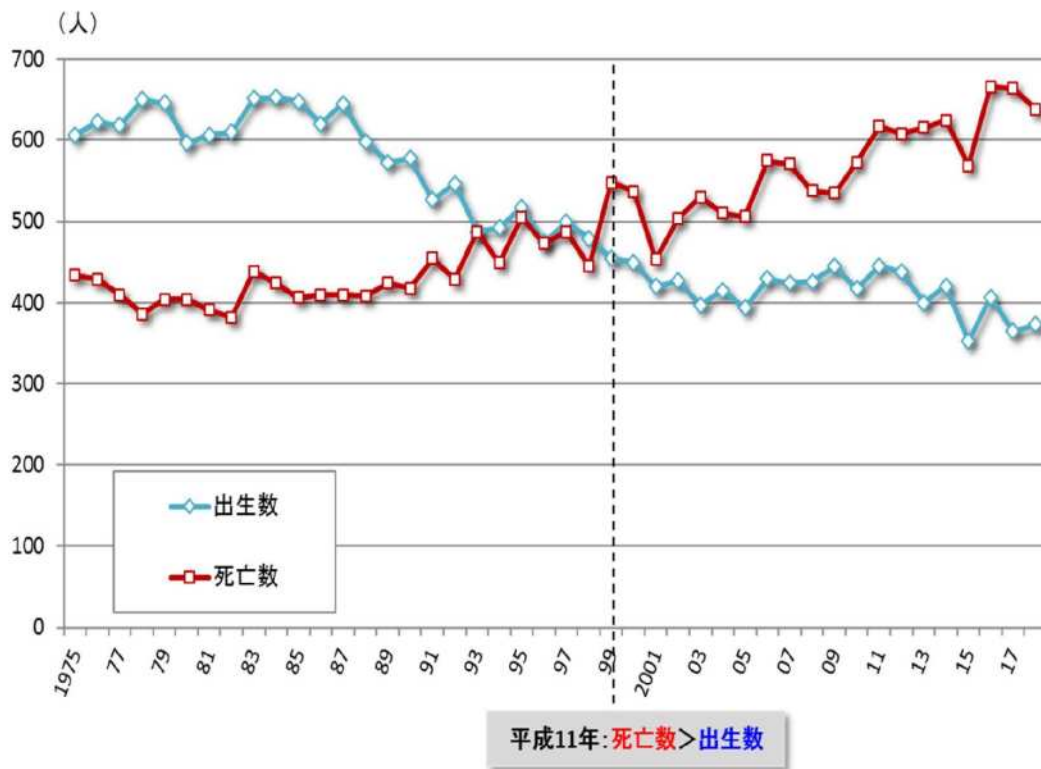
第1章 人口ビジョン

1. 人口の現状分析

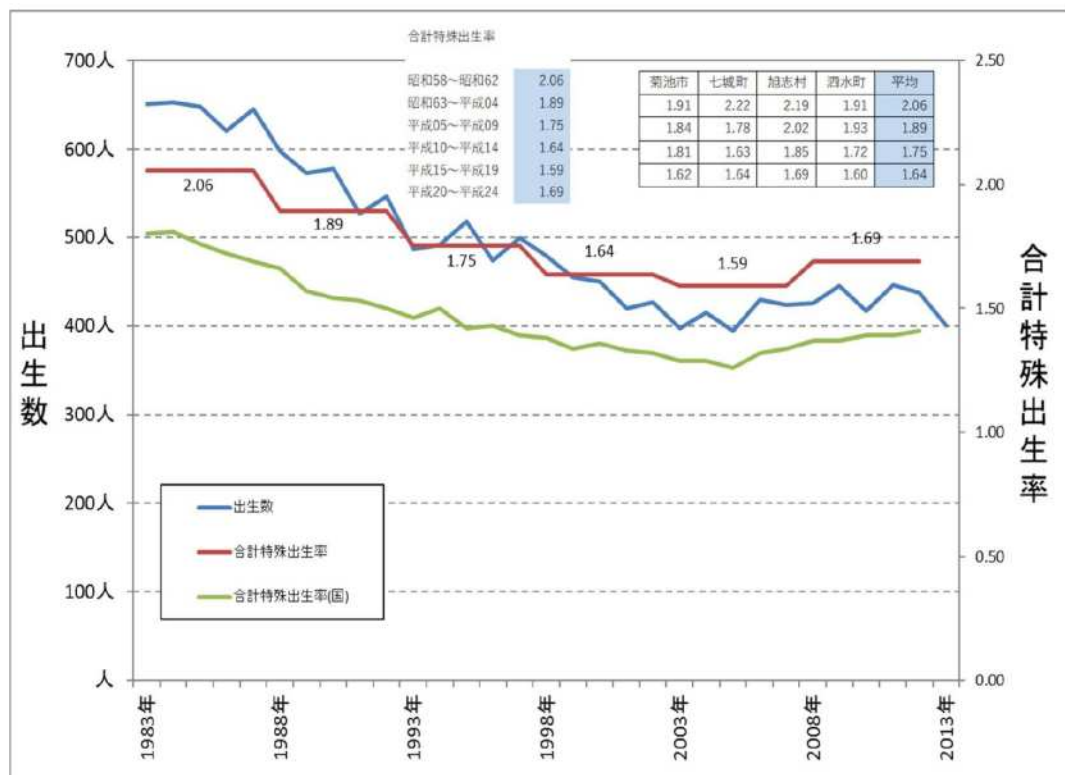
1) 総人口の推移



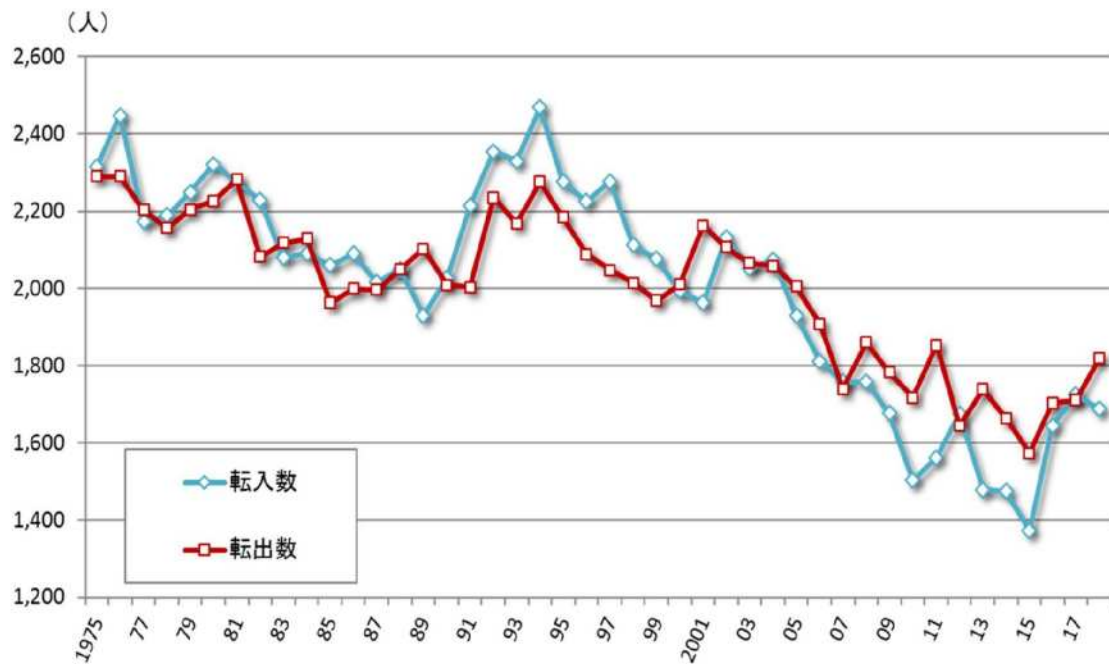
2) 自然増減の推移



3) 出生数と合計特殊出生率の推移

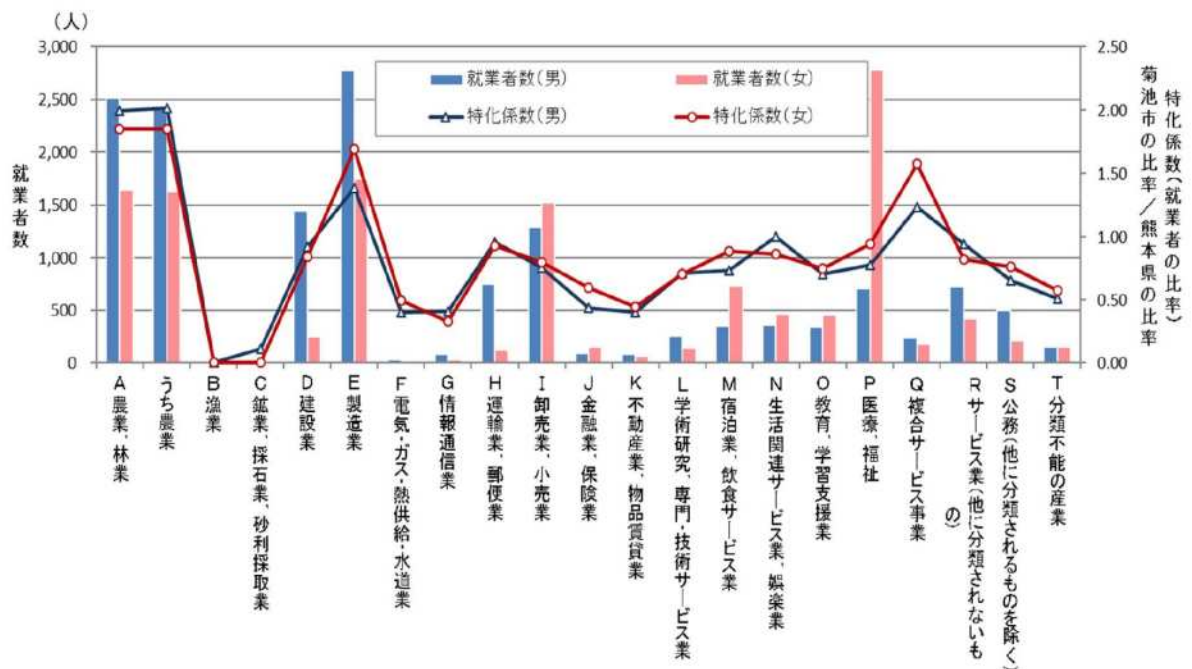


4) 社会増減の推移

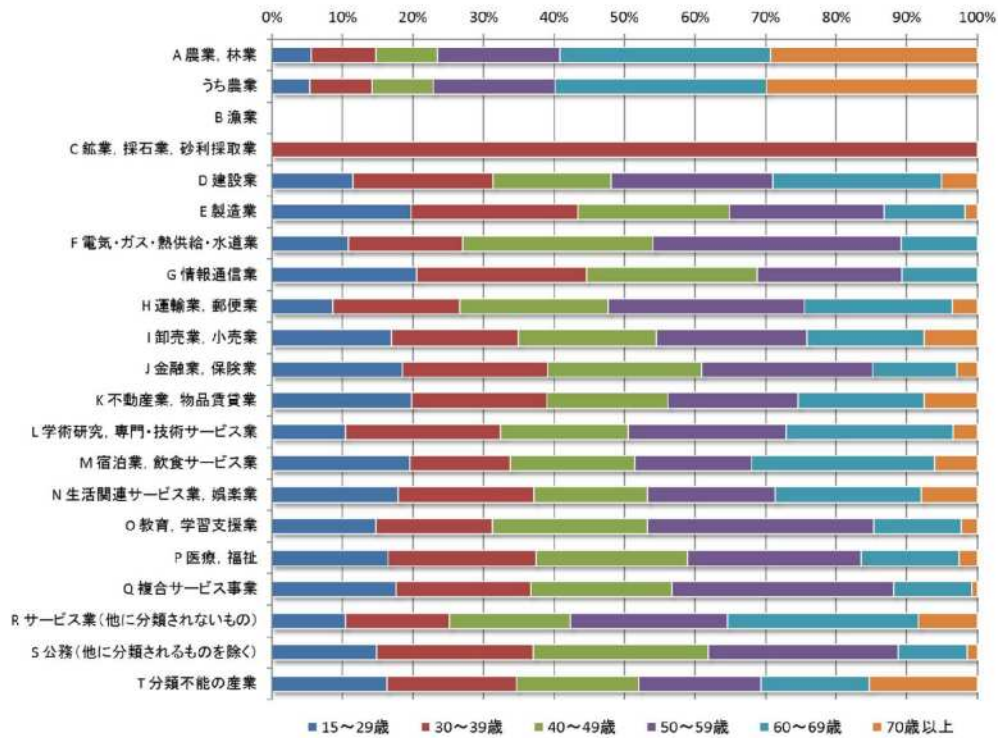


5) 男女別産業人口と年齢階級別産業人口割合

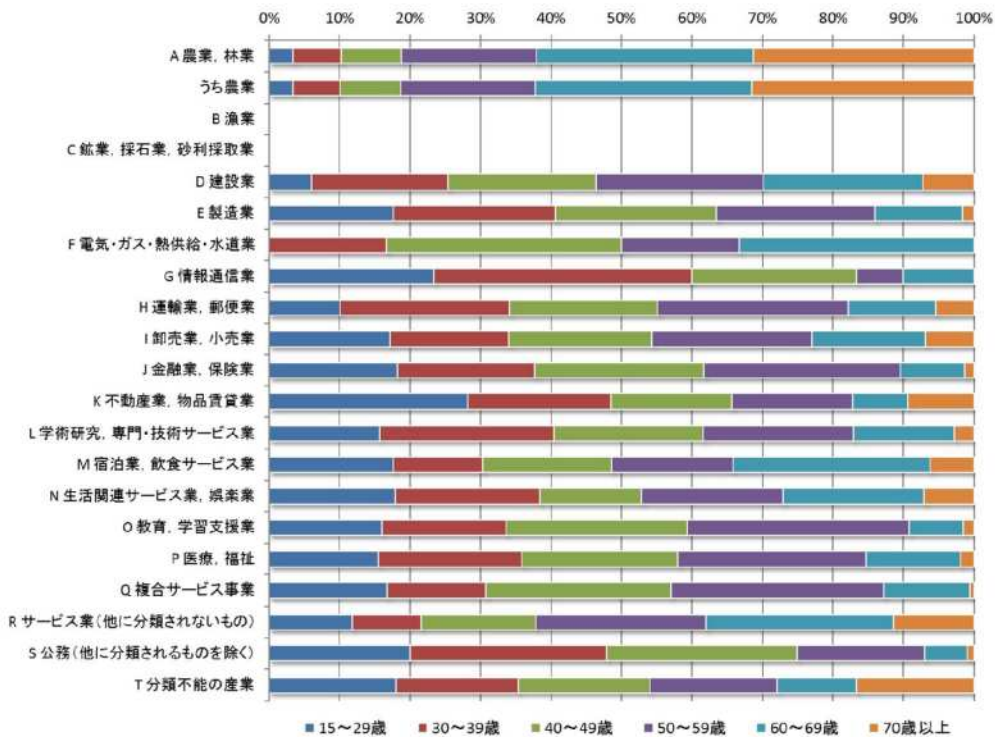
① 男女別産業人口と年齢階級別産業人口割合



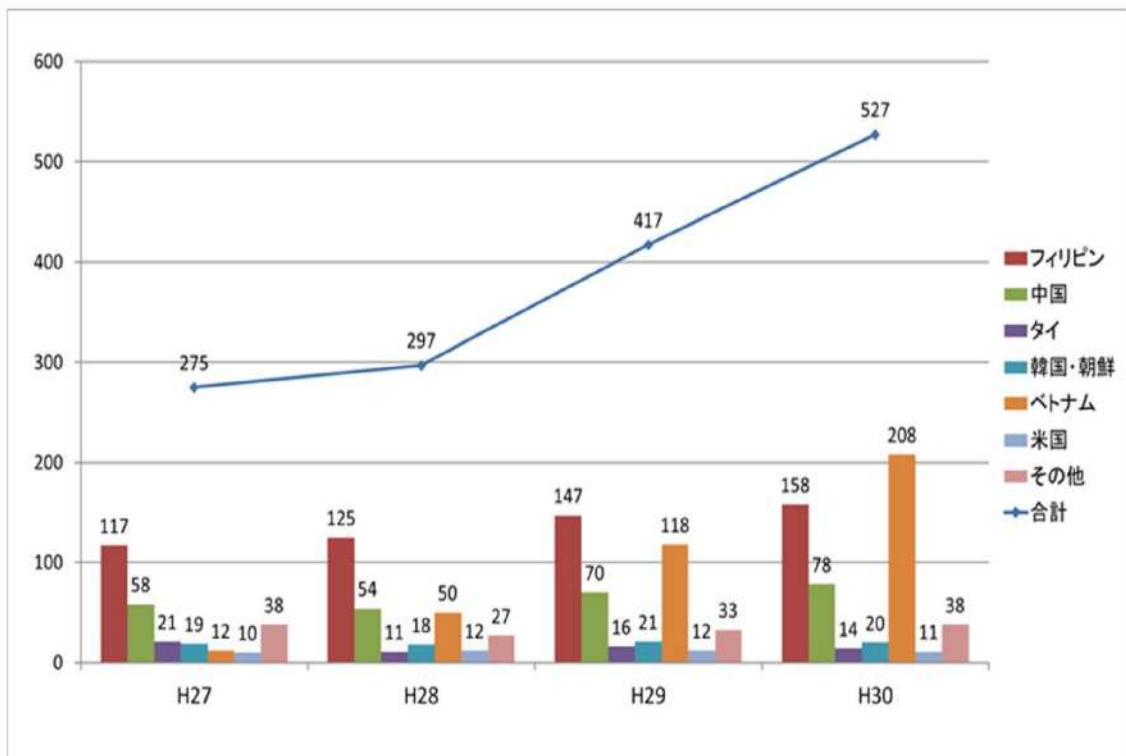
②年齢階級別産業人口割合(男性)



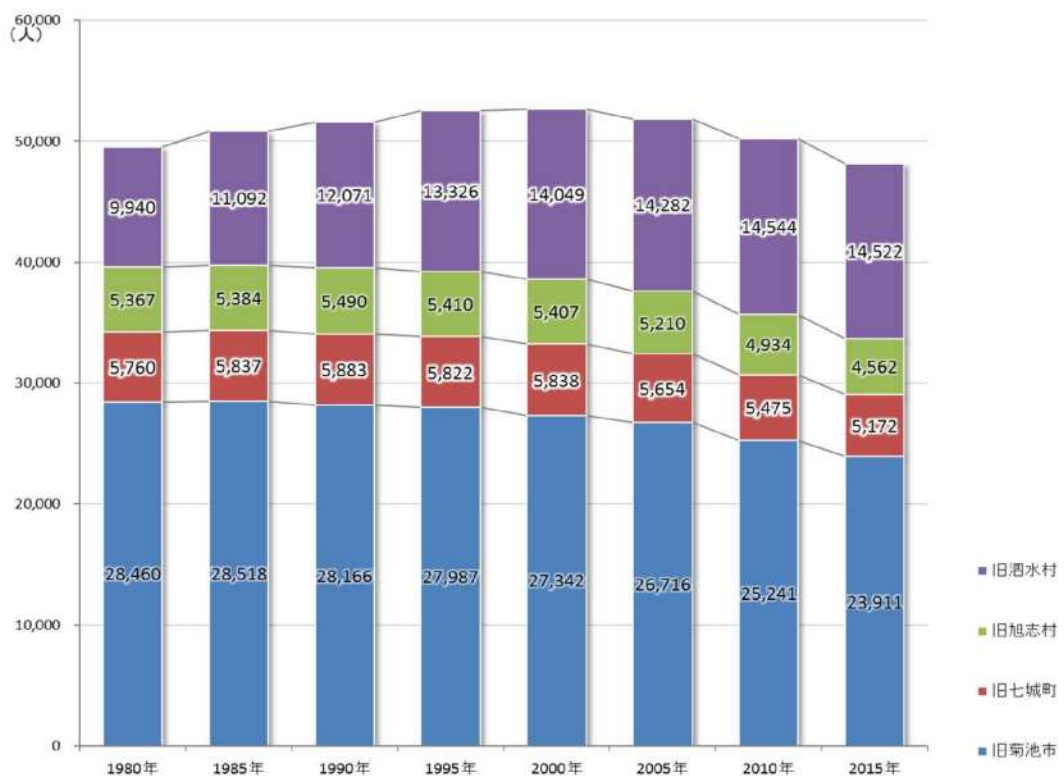
③年齢階級別産業人口割合(女性)



6) 外国人国籍別人口の推移

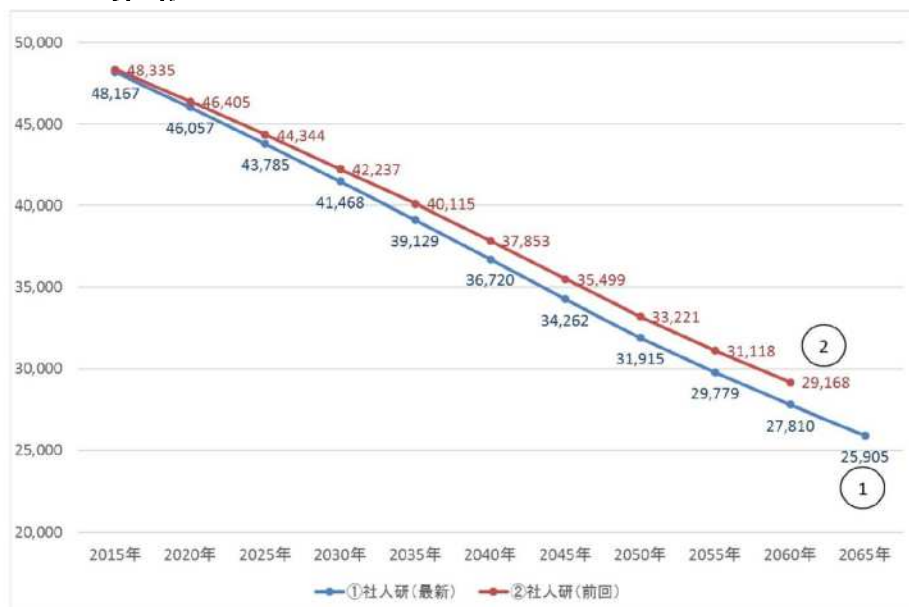


7) 地域別人口の推移



2. 将来人口の推計と分析

1) 総人口の推移



※ ②前回の推計は、人口ビジョンを策定した2015年の国勢調査人口が確定していなかったため2015年の人口が推計値となっていました。今回、①最新の推計では2015年の国勢調査人口が確定したことにより再度推計が行われました。
⇒総合戦略に着手する2015年の人口が推計値を下回ったため、②前回より①最新が下回ることとなりました。

2) 人口減少による経済への影響

- ・経済のマーケット規模縮小
- ・雇用の低迷
- ・人材不足
- ・事業の縮小や廃止



3. 目標人口推計

1) 基本的な考え方

- ・菊池の宝を「健康」で結び、調和させること。
- ・自然を守りながら、自然を活かし、穏やかな発展を目指すこと。
- ・心身の癒しを感じる自然と文化に包まれた暮らしを創り上げること。
- ・市民一人ひとりが、ふるさとに誇りと絆と生きがいを感じることを。



目指すゴールは「癒しの里きくち」の実現

- ・住む人にとり、この地に生まれて(住んで)良かったと思える、安心安全のまち。
- ・来訪者にとり、命の洗濯をしたいと思う場所、また訪れたい、住んでみたいと思うまち。

前回と
同じ

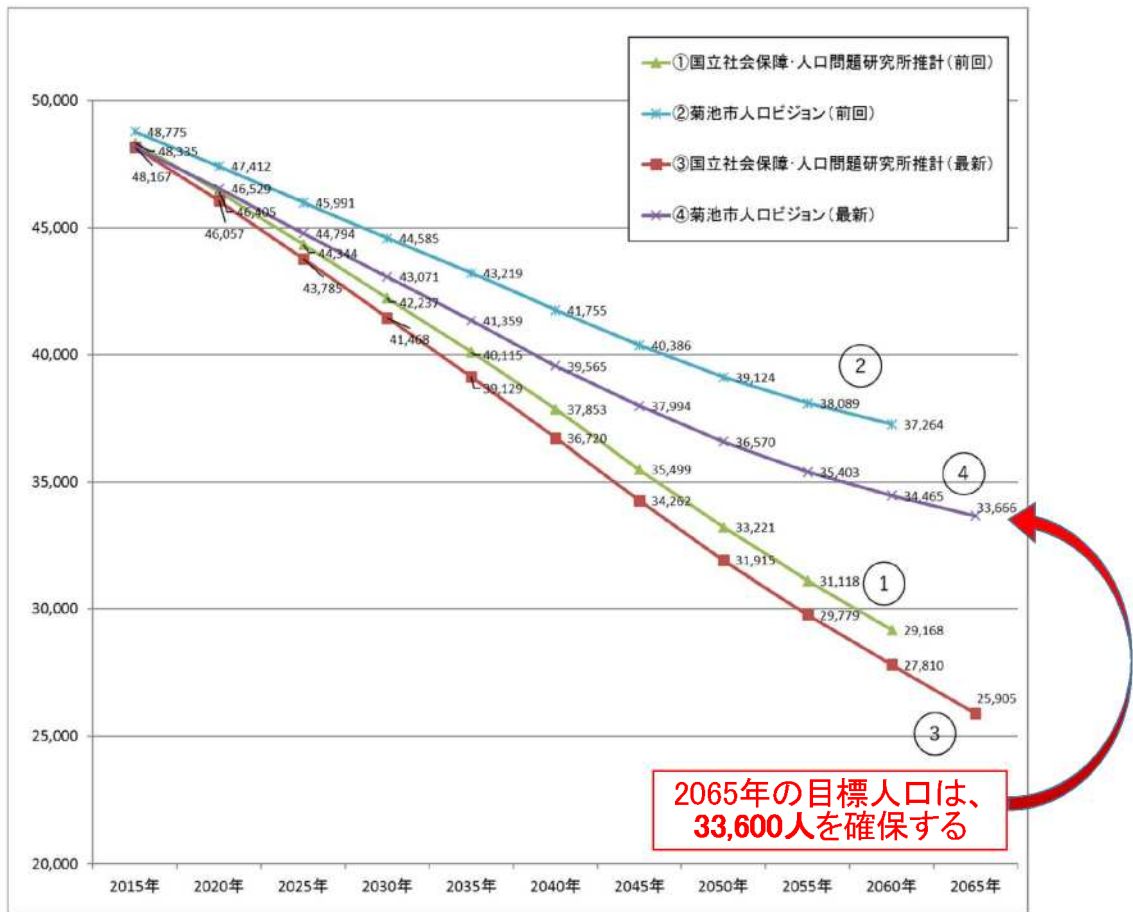
目指すゴールは
「癒しの里きくち」の実現

2) 目指すべき将来の方向性

前回と
同じ

- 合計特殊出生率を2040年までに、2.10まで上昇させることを目指す
- 2040年を目途に社会動態±0を目指す(人口の流入促進と流出抑制)
- 地域資源を活かした産業と観光による交流人口の増加を図る

3) 独自推計による長期人口ビジョン



4) 独自推計による長期人口ビジョン(地域別)



第2章 総合戦略

〈国説明会資料〉

第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定に向けて



第2期「総合戦略」策定に関する有識者会議(増田寛也座長)において第1期の検証と第2期に向けた取組を取りまとめ

まち・ひと・しごと創生基本方針2019

◎基本方針の枠組

- ①第2期(2020年度～2024年度)の基本的な考え方
- ②第2期の初年度(2020年度)に取り組む主な事項

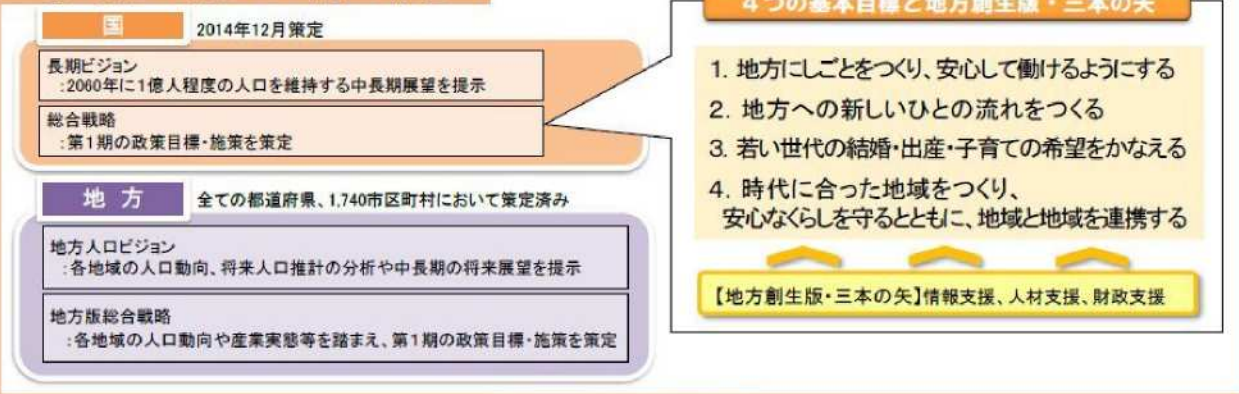
◎今後のスケジュール

- 6月:基本方針2019策定
- 12月:第2期「総合戦略」策定

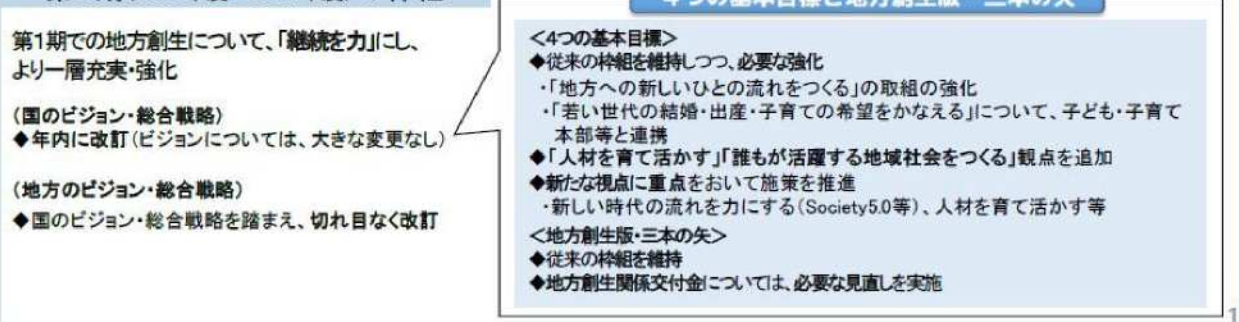
※12月に示す国の第2期「総合戦略」に基づき、地方公共団体は、地方版総合戦略を策定

第2期の方向性

第1期(2015年度～2019年度)の枠組



第2期(2020年度～2024年度)の枠組



第2期における新たな視点

第2期(2020年度～2024年度)においては、4つの基本目標に向けた取組を実施するに当たり、新たな次の視点に重点を置いて施策を推進する。

(1) 地方へのひと・資金の流れを強化する

- ◆将来的な地方移住にもつながる「関係人口」の創出・拡大。
- ◆企業や個人による地方への寄附・投資等による地方への資金の流れの強化。

(2) 新しい時代の流れを力にする

- ◆Society5.0の実現に向けた技術の活用。
- ◆SDGsを原動力とした地方創生。
- ◆「地方から世界へ」。

(3) 人材を育て活かす

- ◆地方創生の基盤をなす人材に焦点を当て、掘り起こしや育成、活躍を支援。

(4) 民間と協働する

- ◆地方公共団体に加え、NPOなどの地域づくりを担う組織や企業と連携。

(5) 誰もが活躍できる地域社会をつくる

- ◆女性、高齢者、障害者、外国人等誰もが居場所と役割を持ち、活躍できる地域社会を実現。

(6) 地域経営の視点で取り組む

- ◆地域の経済社会構造全体を俯瞰して地域をマネジメント。

2020年度における各分野の主要な取組

1. 地方にしごとをつくり安心して働けるようにする、これを支える人材を育て活かす

- ・「地域人材支援戦略パッケージ」等による人材の地域展開
- ・新たなビジネスモデルの構築等による地域経済の発展
- ・「海外から稼ぐ」地方創生
- ・地方創生を担う組織との協働
- ・高等学校・大学等における人材育成

2. 地方への新しいひとの流れをつくる

- ・地方への企業の本社機能移転の強化
- ・企業版ふるさと納税の活用促進による民間資金の地方還流
- ・政府関係機関の地方移転
- ・「関係人口」の創出・拡大
- ・地方公共団体への民間人材派遣
- ・地方の暮らしの情報発信の強化

3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる、誰もが活躍できる地域社会をつくる

- ・個々人の希望をかなえる少子化対策
- ・女性、高齢者、障害者、外国人等が共生するまちづくり

4. 時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する

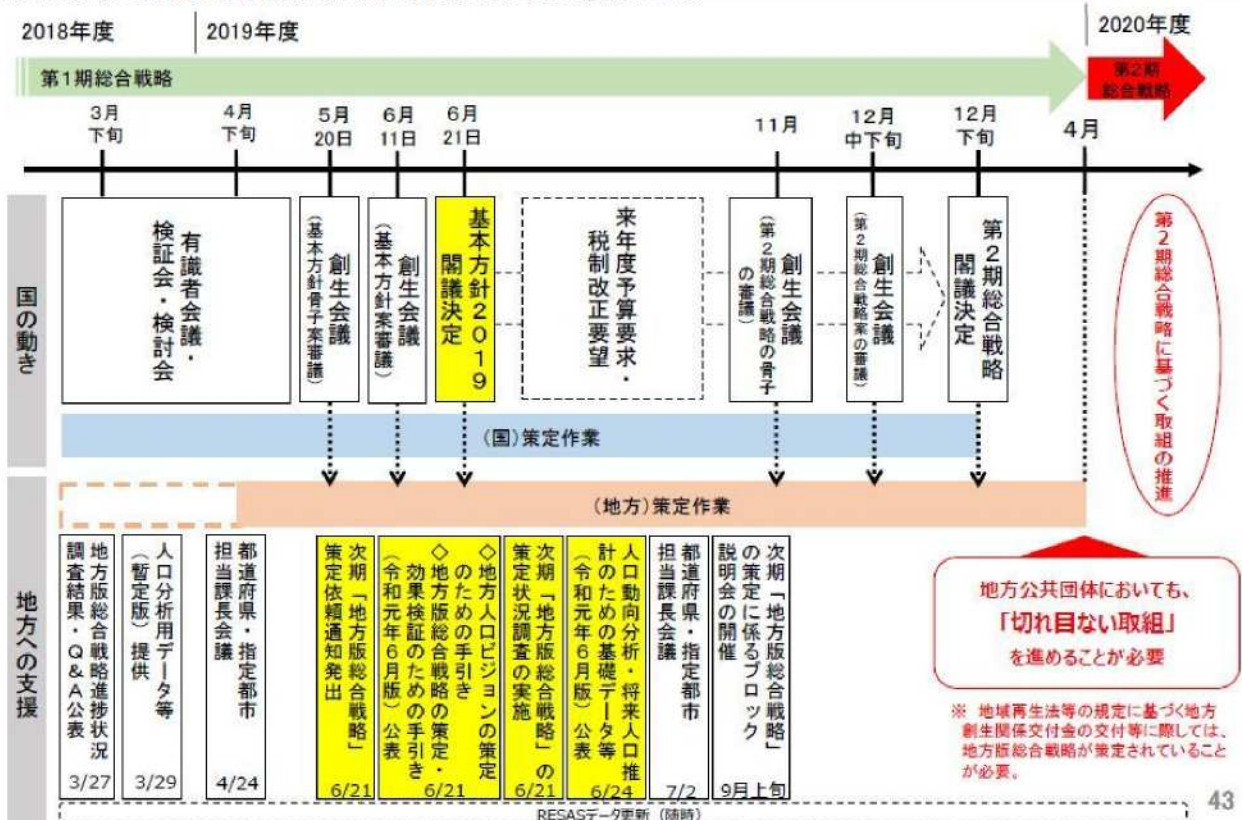
- ・交流を支え、生み出す地域づくり
- ・マネジメントによる高付加価値化
- ・Society5.0の実現に向けた技術の活用
- ・スポーツ・健康まちづくりの推進

5. 連携施策等

- ・地方創生に向けた国家戦略特区制度等の推進
- ・東日本大震災の被災地域における地方創生の加速化
- ・規制改革、地方分権改革との連携
- ・国土強靱化等との連携

第2期「総合戦略」の策定スケジュール（案）

※ 国の動き(創生会議、総合戦略(閣議決定))は、昨年度実績と同様となることを想定して作成。



地方公共団体においても、「切れ目ない取組」を進めることが必要

※ 地域再生法等の規定に基づく地方創生関係交付金の交付等に際しては、地方版総合戦略が策定されていることが必要。

1. 基本的な考え方

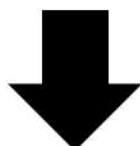
1) 基本的な考え方

これまで取り組んできた第1期「総合戦略」



新たな社会的変化

SDGs理念・超スマート社会(Society5.0)など



目指すゴールは

「癒しの里きくち」の実現

2) 対象期間

令和2年度(2020年度)から

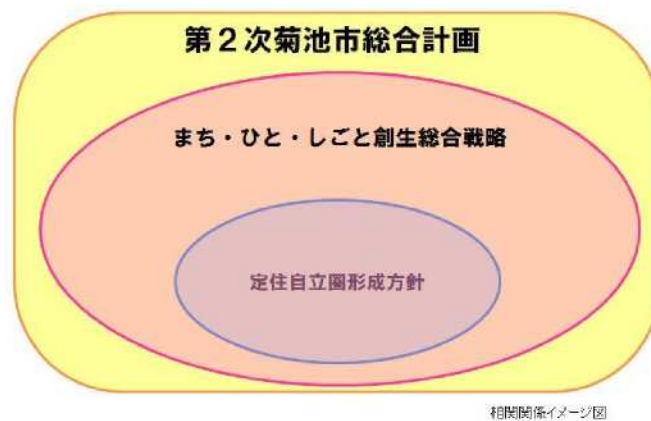
令和6年度(2024)年度までの5年間

総合計画に併せて途中に見直しは行うが当初は5年間

3)位置付け

・菊池市総合計画を基調

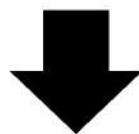
- 人口減少の克服と持続可能な地域活性化に資する施策を戦略化し、重点的に推進する計画として策定



4)「まち・ひと・しごと創生」政策5原則に基づく施策展開

(政策5原則)

- | | |
|--------|-------------------------|
| 1 自立性 | 「将来の地域経済社会の自立と発展」 |
| 2 将来性 | 「地域の夢を自主的・主体的に展望する」 |
| 3 地域性 | 「地域の実情や特色を客観的に分析し、反映する」 |
| 4 直接性 | 「産官学金労言が連携し、集中的に進める」 |
| 5 結果重視 | 「施策効果・成果を客観的に検証する」 |



人口減少に歯止めをかける・人口流出を抑制する

5) 推進体制と効果検証の実施

【内部体制】

- 菊池市まち・ひと・しごと創生総合戦略本部会議
- 政策調整会議

【外部組織】

- **菊池市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議**
(構成メンバー: 産業界・行政機関・大学等研究機関、
金融機関・労働団体・言論機関等)
- 菊池市の未来を考える懇談会
(構成メンバー: 市民代表・有識者等)



PDCAマネジメントサイクルを確立

6) 国、県、市町村等の連携推進

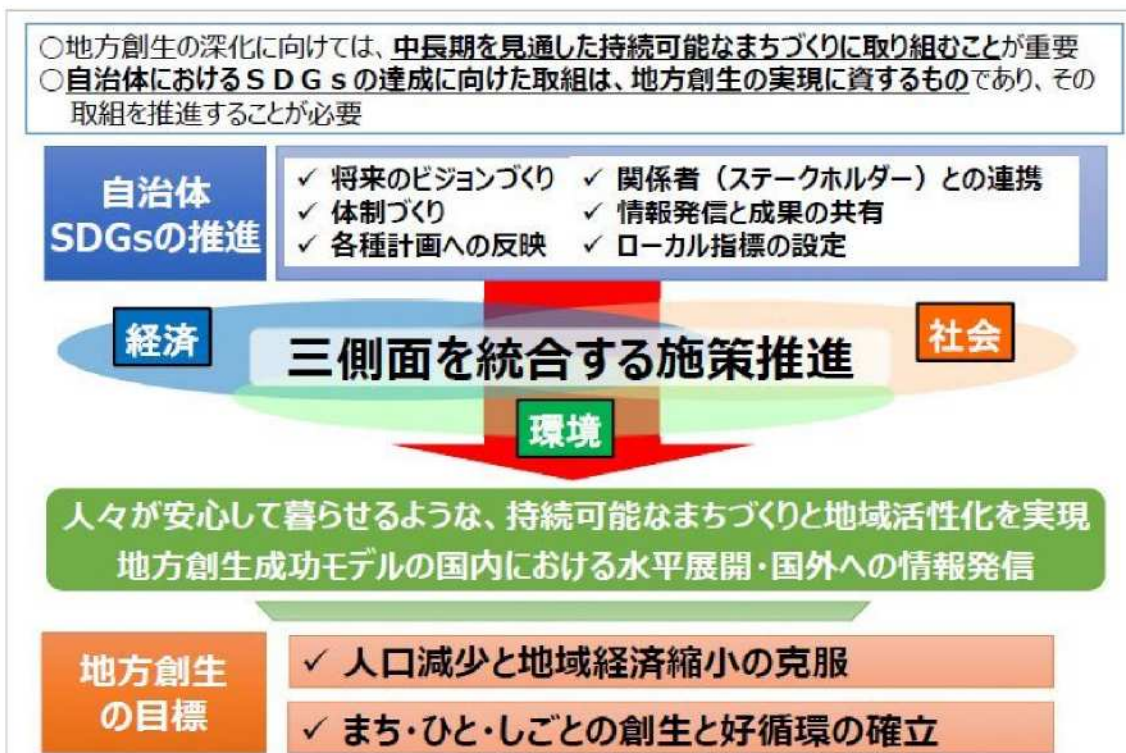
- ① 国、熊本県との連携
- ② 日本遺産をはじめとする共通の歴史体験や暮らしのつながりを持つ近隣自治体
- ③ 全国に広がる菊池一族ゆかりの地など

2. SDGsの視点

SDGsとは「誰一人取り残さない」を理念に、持続可能な社会を目指して2015年9月に国連サミットにおいて、採択された2030年を年限とする17個の国際目標



地方創生における自治体SDGs推進の意義



3. 基本目標

国の基本目標 2	地方への新しいひとの流れをつくる
基本目標 1	菊池の宝を発信し、ひとが繋ぐ“交流のまち”へ
国の基本目標 1	地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする
基本目標 2	稼ぐ力の創出で“働きたいまち”へ
国の基本目標 3	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本目標 3	人を大切にし“一人ひとりが輝くまち”へ
国の基本目標 4	時代にあった地域をつくり、 安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する
基本目標 4	安心・安全な“住みやすいまち”へ

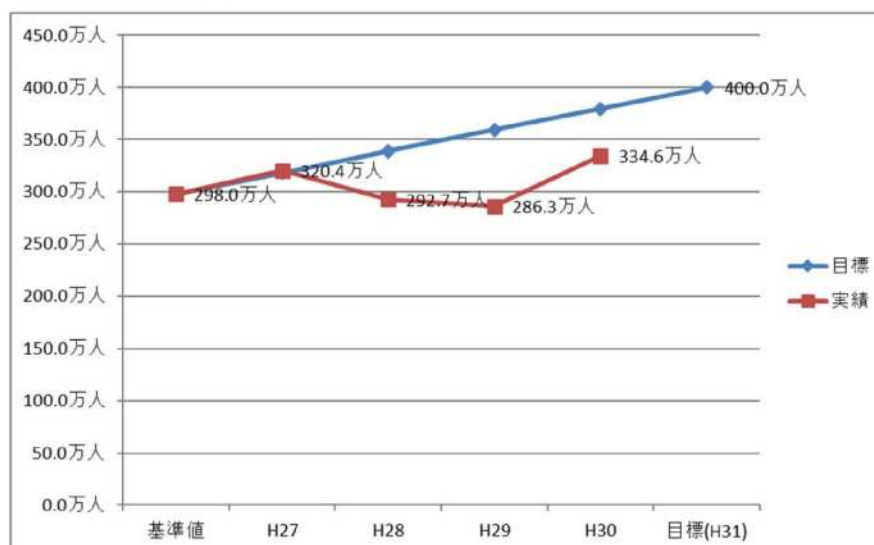
4. 総合戦略

基本目標 1

菊池の宝を発信し、ひとが繋ぐ“交流のまち”へ
 ～菊池ファンを増やす取り組みなどにより、交流人口を増やします～

1) 第1期の成果・課題

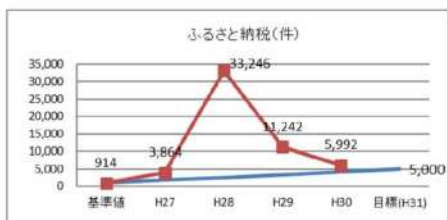
数値目標



ふりかえり
(現況・課題)

- 日本遺産構成市町の観光協会等が交流をはじめており、将来の広域観光への足掛かりとなった。
- 東京都台東区の「浅草区まるごとにつぼん」での継続的なPRにより、本市の観光資源を含め、特産品の消費拡大にも一定の効果があった。
- 各地での観光物産展においても、菊池ファンづくりの中で、菊池溪谷や菊池温泉などのPRとインターネットショップの紹介を行い、特産品の販路開拓につながった。
- ふるさと納税については、平成28年度をピークに件数、寄附金額が減少している。
- 観光物産展でのPRの他、新聞等マスコミからの周知もあり、歴史文化に興味のある「新たな菊池ファン」の発掘につながった。
- 令和元年の菊池武光公生誕700周年を機に実施したキャンペーン企画は参加者の満足度が比較的高く、一族の歴史についての推奨意欲も向上した。講演会参加者の4割は市外であり、ネットワークの広がりも感じられる。
- 健康づくりを軸に新たな観光商品開発を進めてきたが、認知度不足もあり、誘客にはつながりにくかった。
- 近隣市町との連携を活かしたPR活動を実施したことにより、外国人観光客数の増加につながった。
- 全国規模の競技会を誘致することができ、多くの方に来訪いただき、菊池の魅力を発信することができた。
- 空き家バンクの土台を構築し、空き家改修補助金等を活用しながら移住につなげることができた。
- 菊池体験や首都圏での相談会等で、菊池のPRを行いファンを増加を図り、移住に繋げることが出来た。

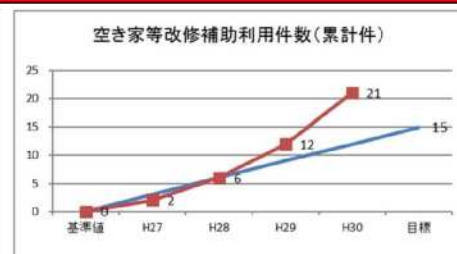
施策ア 菊池の魅力発信・イメージアップ



施策イ 交流人口増と四季を通じた観光の推進

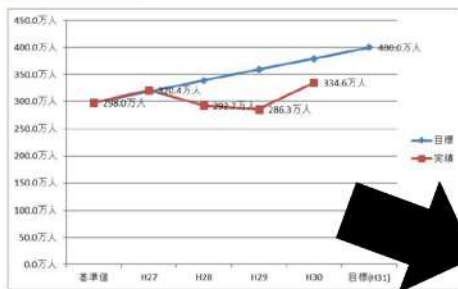


施策ウ 移住定住の促進



2) 第2期計画

数値目標



数値目標

観光客入込客数：対前年比6%増を目指す



ア 菊池の魅力発信と「菊池ファン」の創出・拡大



豊かな自然・歴史・文化・温泉等、本市の癒し系観光地としての魅力を発信し、固定ファンにつながる仕組みづくりを進めます。菊池一族関連の歴史文化コンテンツを活用したネットワークづくりを促進し、関係人口の創出・拡大を図ります。

具体的な施策

- ① 菊池一族ゆかりの広域自治体連携の拡大
- ② 全国のきくちさんや歴史ファン等、潜在的固定客の確保
- ③ ふるさと納税の促進などにつながる情報発信の強化

重要業績評価指標 (KPI)

指標	現状 (H30)	目標 (R6)
菊池ファンクラブ(仮称)登録者数(人)	0	1,000
「がんばるふるさと菊池応援寄付金」の件数(件)	6,000	11,000

イ 観光誘客の更なる強化



市民や行政が一体となった観光地としての質の向上や、菊池産食材を使った「食」のPRを強化するとともに、農業体験などの市独自の体験型観光商品を充実させ、週末余暇の誘客及び滞在時間の延長を図ります。

具体的な施策

- ① 菊池溪谷をはじめとする豊かな自然資源環境を活かした観光客誘致活動の実施
- ② 「健康」をテーマとした体験型旅行商品の充実
- ③ 菊池産食材を使った「グルメ戦略」の推進
- ④ インバウンド観光客への対応強化

重要業績評価指標(KPI)

指標	現状(H30)	目標(R6)
国内旅行者年間宿泊者数(人)	130,000	200,000
外国人旅行者年間宿泊者数(人)	42,000	50,000
菊池溪谷入谷者数(人)	208,000	400,000
グルメ推進事業認定店(件)	0	5

ウ 戦略的な移住施策等の強化



子育てしやすいまち、暮らしやすいまちとしての環境整備を行い、本市の魅力を生かして市内外に広くPRし、転出の抑制、移住者の受け入れ等による移住定住を促進することで人口規模の維持を図るとともに、将来の人口減少をできる限り緩やかにする取り組みを進めます。

具体的な施策

- ① 移住希望者受け入れ体制の充実
- ② 移住・定住につながる情報発信の強化

重要業績評価指標(KPI)

指標	現状(H30)	目標(R6)
空き家バンクへの空き家新規登録件数(件)	22	30
移住定住専用サイトへのアクセス数(回)	55,558	72,000

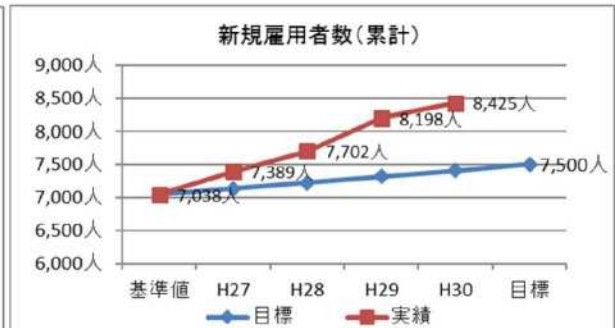
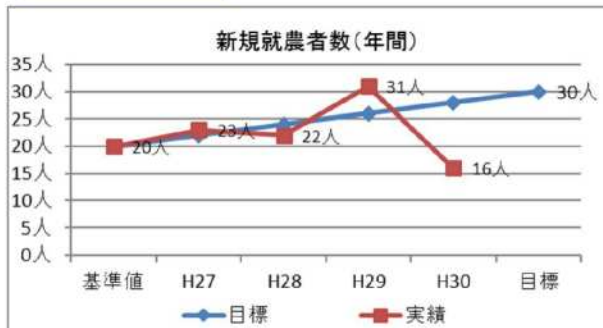
基本目標 2

稼ぐ力の創出で“働きたいまち”へ

～地産地消・地産外商により経済の域内・域外循環の拡大を図ります～

1) 第1期の成果・課題

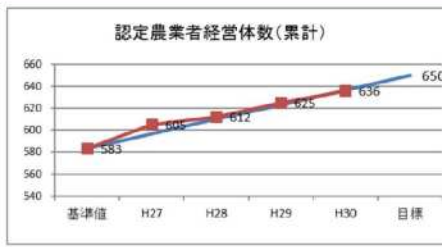
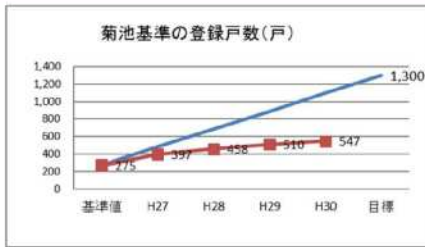
数値目標



ふりかえり
(現況・課題)

- 農業経営を目指す実践的なセミナーの開催により、新規就農につながった。また、営農指導の実施により、栽培技術と品質向上につながり、良質な農産物を生産し出荷することができた。
- 菊池米コンクール等の開催により、米生産者の生産意欲の向上が図られた。また、加工品の開発・商品化により、6次産業化の推進や地域の活性化につながっている。
- 林業への支援を行うことで、間伐の推進を図り、木材の流通量の確保ができた。
- 特用林産物の販売活動を都市圏で行い、販路拡大、消費者拡大、生産者の生産意欲促進が図られた。
- 地域おこし協力隊と連携しながら、空き店舗所有者と創業希望者のマッチングを行うことができた。今まで空き店舗数は把握できていても店舗を貸したい意思のある人の調査や、まちなかで創業したい人をマッチさせることがなかったため、効果的であると見込んでいる。
- 市内企業の地元採用への理解を深めることができた。また、菊池市企業連絡協議会では高校生を採用するべく、高等学校の進路担当者との就職マッチングや高校生の工場見学受け入れを行っており、若者採用に注力する企業が増え、意識改善につながった。
- 市の工業団地完売に伴い、既誘致企業のフォローアップへ方向転換し、人手不足対策情報の収集、情報提供等を行った。
- サテライトオフィス等への誘致活動を行ったが、成果を得ることができなかった。

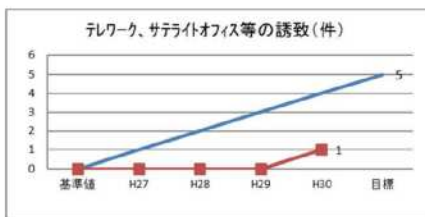
施策ア 「稼げる農業」の構築



施策イ 商工業振興の推進



施策ウ 地域資源を活かした新産業等の振興

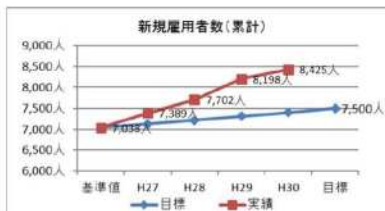
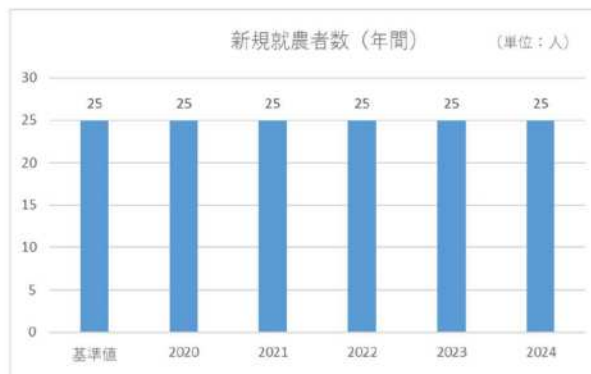
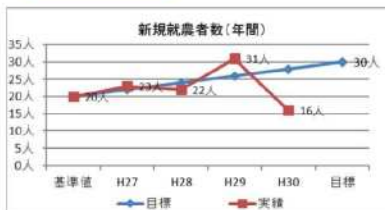


2) 第2期計画

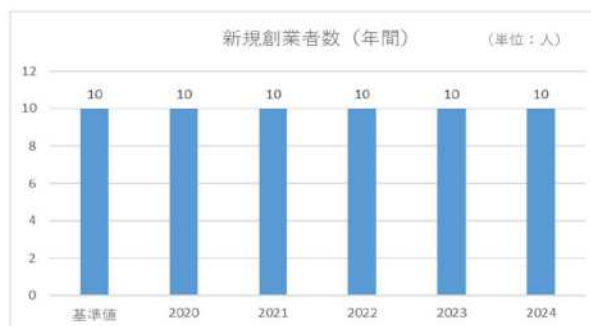
数値目標

数値目標

新規就農者数(年間) 年間 25人



新規創業者数(年間) 年間 10人



ア 未来につながる農業力の強化



環境に配慮した安心・安全で高品質な農林畜産物づくりを推進するとともに、農業の担い手の育成、また営農の組織化や農業基盤整備などの体制面の支援を推進することで、基幹産業である農業の更なる振興を図ります。

具体的な施策

- ① 農業の担い手育成と生産体制の強化
- ② 「菊池ブランド」の戦略的展開
- ③ 新たな特産品の開発と6次産業化の推進

重要業績評価指標(KPI)

指標	現状(H30)	目標(R6)
物産館で販売する新規6次産業化商品数(件)	72	110
新規認定農業者経営体数(累計)(件)	11	78

イ 活力を創出する商工業の振興



経済を活性化させ雇用機会を創出するため、意欲ある商店への支援や起業支援に取り組むことで地域の商店街の魅力向上を図るとともに、IT関連産業などの企業誘致に取り組み、働く場の確保と地域産業の安定化・活性化を図ります。

具体的な施策

- ① 後継者の育成と創業・起業化支援
- ② IT関連産業振興による魅力ある就業機会の創出

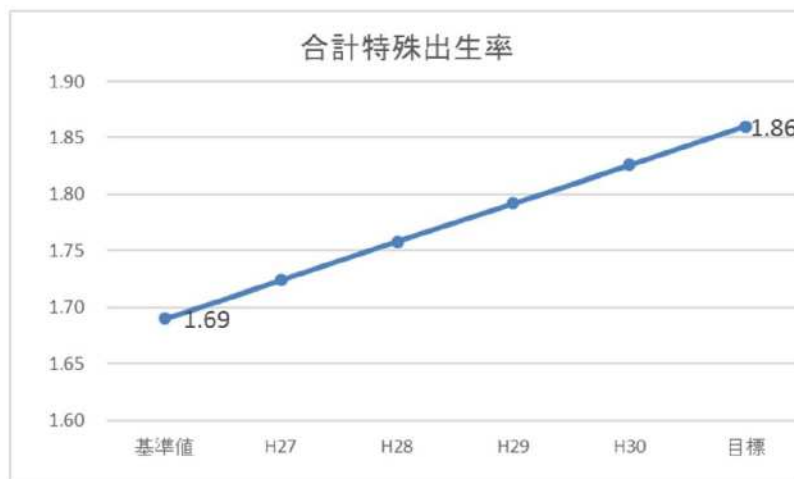
重要業績評価指標(KPI)

指標	現状(H30)	目標(R6)
小規模及び卸売業の販売額(億円)	1,011	1,112
IT関連産業等の誘致・創業数(件)	0	5

人を大切に“一人ひとりが輝くまち”へ ～夢や希望に向けて取り組むことができる社会実現を図ります～

1) 第1期の成果・課題

数値目標

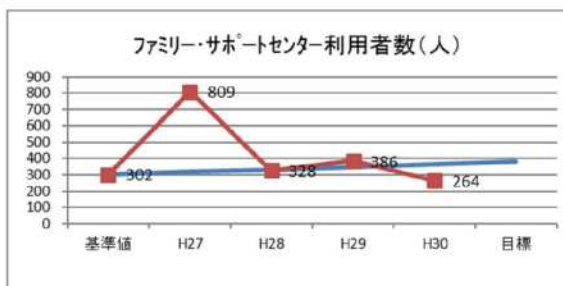
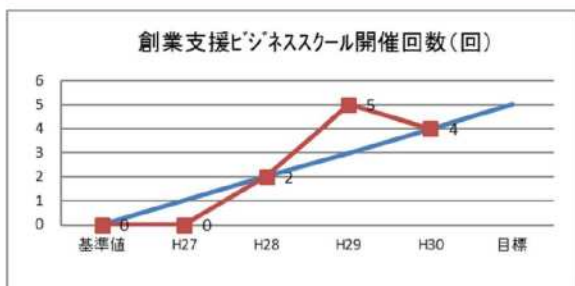


※5年ごとに測定(2020年の測定)

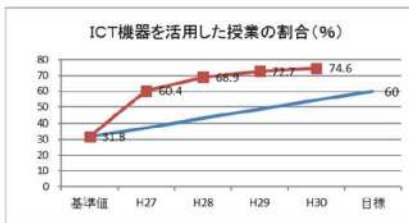
ふりかえり
(現況・課題)

- 子育てに関する相談窓口を一本化することで、利便性の向上と保護者の問題解決に迅速に対応することができ、子育てに関する不安解消を図れ、安心して子育てができる環境が整えられた。
- 婚活については、イベントのみでなくセミナーを取り入れることで人生設計やこれからの将来について考えるきっかけにすることができた。
- ファミリーサポート事業により、子育てしやすい環境はできたが、協力会員が不足しており、提供体制の充実が今後の課題である。
- 市独自の給付型奨学金制度を創設し、経済的な理由で高校や大学への進学を断念しないよう対策を行った。
- 森の学校・きくちを開催し、グローバル人材の育成につながった。
- ハイスクールフェスティバルを開催し、市内3高校の魅力を中学2年生に伝えることができた。
- 生涯学習センターがオープンし、公民館や図書館等の環境が整ったことにより、市民の生涯学習活動に対する意識の高揚や活動の活性化が見られたほか、高齢者の生きがいづくり、健康づくりに役立てることができた。
- 地域未来塾については、当初2校からはじめたが、平成30年度より市内5中学校すべてで実施することができている。

施策ア 結婚・子育て等切れ目のない一貫した支援

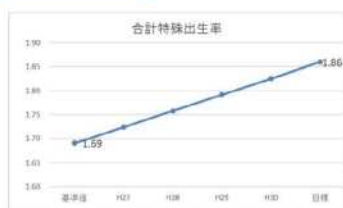


施策イ 次世代を担う若者の育成と生涯学べる環境づくり



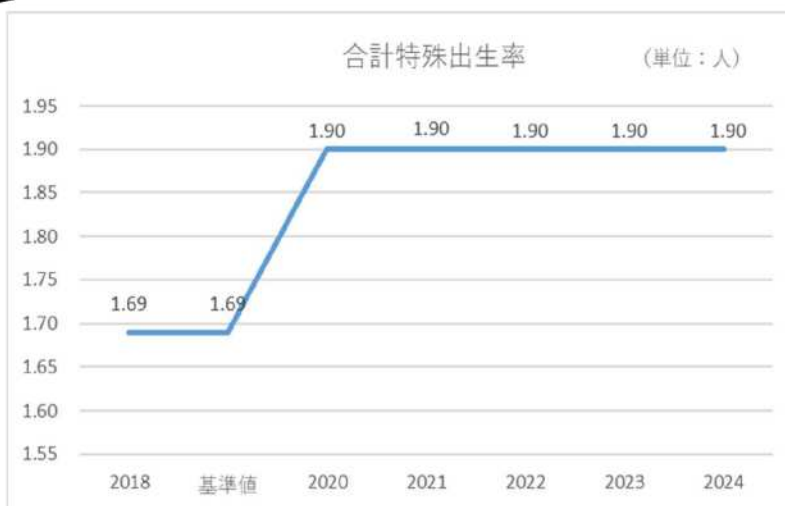
2) 第2期計画

数値目標



数値目標

合計特殊出生率：5年後「1.90」を目指す



ア 結婚・出産・子育て等トータルサポート体制の充実



妊娠・出産・子育てに関する相談やサポート体制の充実を図るとともに、待機児童ゼロの継続と、子育てと仕事を両立するための支援を推進します。

具体的な施策

- ① 妊娠・出産・子育てへの包括的な支援
- ② 女性が働きやすい環境づくりと「ワーク・ライフ・バランス」の推進
- ③ 困難を抱える子どもやDV問題等きめ細やかに手をさしのべる社会の実現

重要業績評価指標(KPI)

指標	現状(H30)	目標(R6)
ファミリー・サポートセンターの協力会員・両方会員数(人)	165	200
保育所待機児童数(人)	0	0
乳児期における母子の保健指導率(%)	98.4	100

イ 学びを通して人が育つまちづくり



本市の次代を担う若者を育成するため、より良い教育環境の整備に取り組むとともに、早い時期から世界へ羽ばたくことができる人財の育成を目指します。また、誰もが生涯にわたり学び続け、その成果を個人の生活や地域での活動等に生かすことの出来る「生涯学習社会」の実現を目指します。

具体的な施策

- ① グローバルな視点を持つ、未来のリーダー育成
- ② 地域が抱える課題解決を目指して継続的に活動し、実践できる人財の育成
- ③ 心の豊かさや心身の健康のための生涯を通じた学びの推進

重要業績評価指標(KPI)

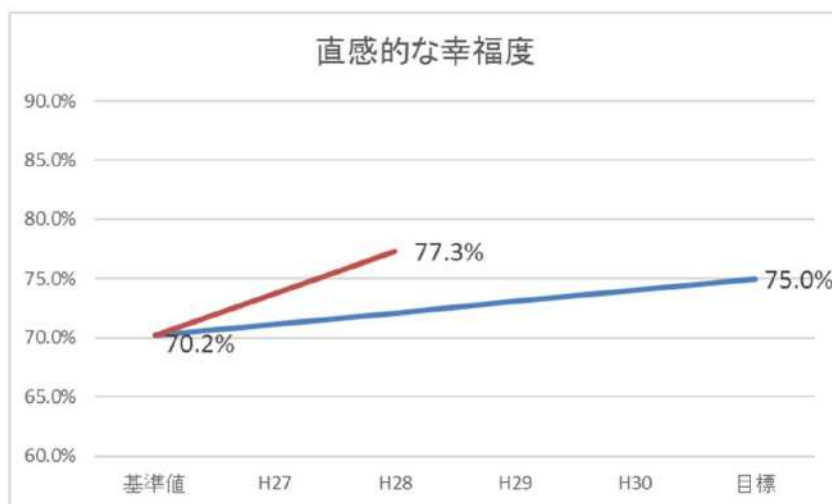
指標	現状(H30)	目標(R6)
ICT機器を活用した授業の割合(タブレット利用率)	74.6 (10%未満)	75 (50%)
コミュニティスクール(国版の導入)	53	100
地域学校協働活動推進員の配置(%)	26	100
各公民館主催講座受講者数(人数)	1,900	2,200

安心・安全な“住みやすいまち”へ

～市民一人ひとりが、健康で共に助け合い支えあう安心・安全の社会実現を目指します～

1) 第1期の成果・課題

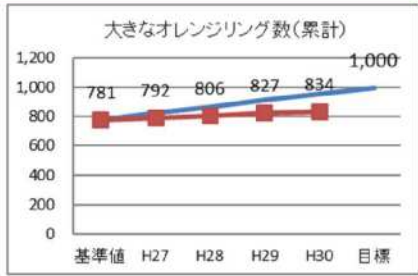
数値目標



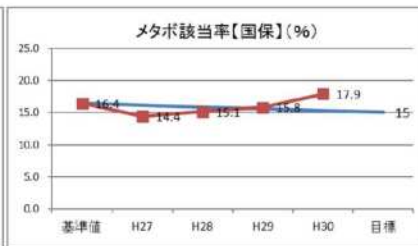
ふりかえり (現況・課題)

- 総合計画策定に伴うアンケートにおいて、「幸福だと思いますか」との項目では、感じている・やや感じているとの回答が77.3%、「住み続けたいと思いますか」では、思う・どちらかといえば思うが80.1%という結果でした。
- 自主防災組織の設立により、熊本地震の際にも、地域主導による防災活動が行われた。
- あいのりタクシーについては、利用人数は横ばいであり、継続した利用方法の周知や、利便性の向上に向けた取組みが必要である。
- 地域ケア会議や在宅医療・介護連携推進事業に取り組んだことで、徐々にではあるが、地域包括ケアシステムの構築が図られている。
- 大きなオレンジリング活動の協力者・協力店が徐々に増加するなど、認知症の人やその家族への見守り体制が構築されている。
- 出前講座や健康教室を通して、継続して健康づくりのための運動に取り組む地区・団体ができた。
- 住民運営の通いの場の立上げについては、リハビリテーション専門職等の派遣及び体操の効果などの口コミにより目標を達成した。
- 令和元年より健康ポイント事業を開始した。ポイント付与条件に健診の受診を義務付けているため、受診率向上も期待できる。

施策ア 安心・安全な住みやすいまちづくり



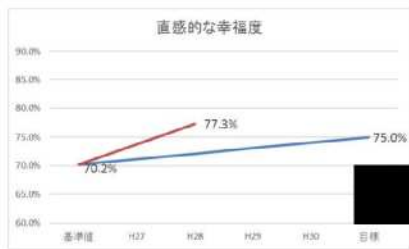
施策イ 健康長寿のまちづくり



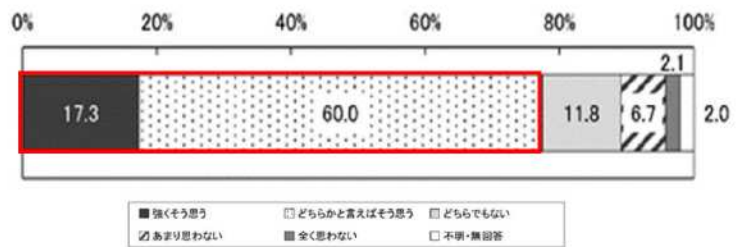
2) 第2期計画

数値目標

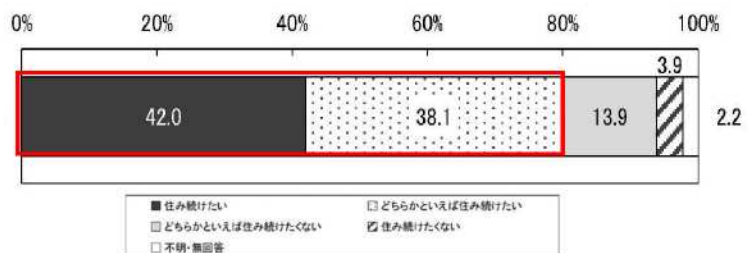
数値目標



幸福だと思える市民の割合
77.3%を5年後“上昇”を目指す



住み続けたいと思う市民の割合
80.1%を5年後“上昇”を目指す



ア 新しい時代にあった安心・安全なまちづくり



市民一人ひとりが、共に助け合い支えあい、誰もが安心・安全で快適な生活を送れるよう、新しい時代にあった環境の整備や地域コミュニティの中心となるリーダーの育成に取り組みます。

具体的な施策

- ① 地域ぐるみで助け合う防災・減災の体制強化
- ② Society5.0の実現に向けた技術を活用した地域課題の克服
- ③ 誰もが活躍できるダイバーシティの実現

重要業績評価指標(KPI)

指標	現状(H30)	目標(R6)
防災士登録数(累計)(人)	145	500
あいのりタクシーの利用者数(人/年)	20,899	22,000
べんりカーの利用者数(人/年)	10,433	12,000

イ 人生100年時代に向けた健康長寿のまちづくり



高齢者が生涯を通じ住み慣れた地域で暮らすことができるよう、健康寿命を延ばす取り組みや、高齢者の自立を促すとともに、認知症サポーターの養成など、地域全体で高齢者を見守る体制の整備に努めます。

また、生涯を通じて心豊かな生活を送るためには「健康」であることが重要です。ライフステージに応じた健康づくりや生活習慣病の予防等への関心を高め、日ごろの運動習慣の醸成や食生活の改善、がん検診や特定健診の受診を促すことで、市民の健康づくりを推進します。

具体的な施策

- ① 住み慣れた地域で暮らすことができる環境の整備
- ② 市民が主体的に健康づくりに取り組む支援の充実

重要業績評価指標(KPI)

指標	現状(H30)	目標(R6)
住民運営の通いの場取組団体数(箇所)	65	140
認知症サポーター数(人)	17,470	25,777
特定検診の受診率【国保】(%)	32.8	46.0
メタボ及び予備軍該当率【国保】(%)	29.3	23.0

総合戦略の体系図

基本目標	施策	主な取り組み
基本目標1 菊池の宝を発信し、ひとが繋ぐ”交流のまち”へ ～菊池ファンを増やす取り組みなどにより、交流人口を増やします～	ア 菊池の魅力発信と「菊池ファン」の創出・拡大	① 菊池一族ゆかりの広域自治体連携の拡大 ② 全国のきくちさんや歴史ファン等、潜在的固定客の確保 ③ ふるさと納税の促進などにつながる情報発信の強化
	イ 観光誘客の更なる強化	① 菊池渓谷をはじめとする豊かな自然資源環境を活かした観光客誘致活動の実施 ② 「健康」をテーマとした体験型旅行商品の充実 ③ 菊池産食材を使った「グルメ戦略」の推進 ④ インバウンド観光客への対応強化
	ウ 戦略的な移住施策等の強化	① 移住希望者受け入れ体制の充実 ② 移住・定住につながる情報発信の強化
基本目標2 稼ぐ力の創出で“働きたいまち”へ ～地産地消・地産外商により経済の域内・域外循環の拡大を図ります～	ア 未来につながる農業力の強化	① 農業の担い手育成と生産体制の強化 ② 「菊池ブランド」の戦略的展開 ③ 新たな特産品の開発と6次産業化の推進
	イ 活力を創出する商工業の振興	① 後継者の育成と創業・起業化支援 ② IT関連産業振興による魅力ある就業機会の創出
基本目標3 人を大切に“一人ひとりが輝くまち”へ ～夢や希望に向けて取り組むことができる社会実現を図ります～	ア 結婚・出産・子育て等トータルサポート体制の充実	① 妊娠・出産・子育てへの包括的な支援 ② 女性が働きやすい環境づくりと「ワーク・ライフ・バランス」の推進 ③ 困難を抱える子どもやDV問題等きめ細やかに手をさしのべる社会の実現
	イ 学びを通して人が育つまちづくり	① グローバルな視点を持つ、未来のリーダー育成 ② 地域が抱える課題解決を目指して継続的に活動し、実践できる人財の育成 ③ 心の豊かさや心身の健康のための生涯を通じた学びの推進
基本目標4 安心・安全な“住みやすいまち”へ ～市民一人ひとりが、健康で共に助け合い支えあう安心・安全の社会実現を目指します～	ア 新しい時代にあった安心・安全なまちづくり	① 地域ぐるみで助け合う防災・減災の体制強化 ② Society5.0の実現に向けた技術を活用した地域課題の克服 ③ 誰もが活躍できるダイバーシティの実現
	イ 人生100年時代に向けた健康長寿のまちづくり	① 住み慣れた地域で暮らすことができる環境の整備 ② 市民が主体的に健康づくりに取り組む支援の充実